
美智子さん～悲劇の始まり～

おこじょ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美智子さん〜悲劇の始まり〜

【Nコード】

N4403I

【作者名】

おごじょ

【あらすじ】

ある11月の日曜日、主人公宏司ひろしは、姉の智子ちこから、美智子みちこさんの話を聞いて、宏司は4人の友達と美智子さんの出ると言う道へ向かうはずだった。
が、しかし……………

01 三時のおやつ

「うあゝ！！もう我慢できない！！」
パクッ！！

ひろしが冷蔵庫から、智子の最後のシュークリームを、申し訳な
さそうに食べた。

「んゝ おいしいゝ 食べちゃった。」
「ただいまゝ」

智子が帰ってきた。宏司は何事も無かったかの様に、智子に「お
帰り。」と言って、二階の部屋に向かった。

ガチャ。

「やつちゃったなあゝ。」

宏司は「はあゝ」とため息をついて、自分の部屋に入った。

「三時かあゝ」

おやつの際には、いつもお母さんが自分の分のお菓子を作って食
べているのだが、今日は何故か朝からお母さんがいない。

「あゝあ、お母さん何処行ったんだろゝ」

「あゝ！！私のシュークリームが無い！！」

智子が冷蔵庫を開けて言った。

「ひろしゝ！！食べたでしょ！？私のシュークリーム！！」

「あゝあ、智子怒っちゃったなあゝ」

自分のせいだと自覚する宏司にとっては、ちよつと嫌な事だった。

「ちよつと聞いている！？宏司！！」

「うん。ごめん。」

宏司は反省しながら、てくてくとリビングへ向かった。智子は、
腕を組んで目の前に立っている。

「ちよつと宏司！どうすんのよ！？」

智子はひどく怒っている。

「分かったよ。後で買いに行くから。シュークリーム。」

宏司はしょうがなく、7時にシュークリームを買いに行く事にした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4403i/>

美智子さん～悲劇の始まり～

2010年10月17日03時22分発行